|  |
| --- |
| **評価問題について** |

**１　〔評価問題〕**

１　資料Ⅰ「平泉」の文章と資料Ⅱ「永久欠番」の歌詞を読んで次の問い①②に答えなさい。

①　資料Ⅰ「平泉」の文章と資料Ⅱ「永久欠番」の歌詞では，「人の存在の儚さ」について，それぞれの作者はどう捉えていると考えられますか。それらが読み取れる表現を資料１と資料２から引用したうえで，どう捉えているのか分かるように書きなさい。

②　①のような考えについて，あなたはどう考えますか。あなたの考えを支える根拠となる経験や見聞をふまえて具体的に書くこと。

【資料１】

|  |
| --- |
| 三代の栄耀一睡のうちにして，大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて，金鶏山のみ形を残す。まづ，高館に登れば，北上川南部より流るる大河なり。衣川は，和泉が城をめぐりて，高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は，衣が関を隔てて南部口をさし固め，夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつてこの城に籠もり，功名一時の草むらとなる。「国破れて山河あり，城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて，時のうつるまで涙を落としはべりぬ。  　夏草や兵どもが夢の跡  　卯の花に兼房見ゆる白毛かな　曾良 |

【資料２】

|  |
| --- |
| 「永久欠番」歌詞（略）    出典：作詞　中島みゆき　作曲　中島みゆき『歌でしか言えない』ポニーキャニオン（1991年10月） |

**２　〔解答類型〕**

問題①　解答類型

|  |  |
| --- | --- |
| １ | 条件①，②を満たして解答しているもの。 |
| ２ | 条件①を満たし，条件②を満たさないで解答しているもの。 |
| ３ | 条件②を満たし，条件①を満たさないで解答しているもの。 |
| 99 | 上記以外の解答 |
| ０ | 無解答 |

|  |  |
| --- | --- |
| 解答類型１ | （正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　それぞれの作者が「人の存在の儚さ」についてどう捉えていたかを適切に書いている。 ②　①について，それが読み取れる表現を引用して書いている。  （正答例） 　この２つの作品を通して考えられる「人の存在の儚さ」とは，「この世に形としてはなくなるが，生きていた事実やその思いというものは，時を経ても存在し続けるものだ」ということだ。 　「平泉」では，芭蕉は「夏草や　つはものどもが　夢の跡」という歌を詠んでいる。かつて栄えた平泉は跡形もなくなってしまっているが，そこには確かに人々がいて，さまざまな思いをもって生活していた。今は人の姿も人間の行いもないけれど，芭蕉の目の前にはありありとその姿が見えていたのではないかということがわかる歌だ。 　また，「永久欠番」には，「どんな記念碑（メモリアル）も　雨風にけずられ崩れ　人は忘れられて　代わりなどいくらでもあるだろう」や「１００億の人々が忘れても　見捨てても　宇宙（そら）の掌の中　人は永久欠番」という表現がある。そこには，中島みゆきさんの，「この世の中における人間の存在はちっぽけで，いつかは忘れ去られてしまうものかもしれないけれど，その人の存在やその人が何かを考えて生きていたという事実はかわらない」という思いが感じられる。  〔実際の生徒解答例〕 ・私は，「平泉」の「三代の栄耀一睡のうちにして」や，「功名一時の草むらとなる」，「夏草やつはものどもが夢の跡」から，作者は，「人の存在の儚さ」を，どれだけ戦場で手柄を立てたり，どれだけ栄えようとも，それは自然や，地球の中では一瞬で夢のようなもので，いつかは忘れられてしまうものだと捉えていたんだと考えられます。また，中島みゆきさんの「永久欠番」では，「街は回ってゆく人1人消えた日も何も変わる様子もなく」や，「どんな記念碑(メモリアル)も雨風にけずられて崩れ」から，誰か1人が消えたとしても，街は，世界は何事もなく回るし，どんなに大切な記念碑であっても忘れられるものだと捉えているんだと考えられます。 　 ・「平泉」には「夏草やつはものどもが夢の跡」という句が詠まれている。その句からは，昔の景色や人が夢だったかのように形残さずなくなったことに対する曾良の切なく寂しい気持ちが読み取れる。つまり作者は人の存在の儚さについて，その当時に大きな活躍をしたり何かを残したりした人でも，年月が経つにつれて忘れられてしまう，時間の流れに伴ってどんな人間も忘れられていくと捉えていると考えられる。また，「功名一時の草むらとなる。」や「卯の花に兼房見ゆるしらがかな」という表現からは，作者が人の存在の儚さについて，亡くなった後はその姿や景色は残っていないが，誰かの思い出として残っていると捉えていると考えられる。 　「永久欠番」には「100億の人々が　忘れても　見捨てても　宇宙(そら)の掌の中　人は永久欠番　宇宙の掌の中　人は　永久欠番」という表現がある。そこからは，作者である中島みゆきさんが人の存在の儚さについて，多くの人に忘れられたり見捨てられたりしたとしても，遠い宇宙で星が輝いているように，どこかで輝いて残っていると捉えていると考えられる。  　　 ・この二つの文章と歌詞から「人の存在のはかなさ」について，人が残した功績や人と人との思い出はこの世界の中で永遠に形として残り続けるわけではないけれど，時として人の存在がこの世界を超えて，永久にかけがえのない一人として，生き抜いたあかしは存在していると捉えていると感じました。芭蕉は「時のうつるまで涙を落としはべりぬ。」と三代の栄耀や功名を立てたことも一時のはかないことであったとしても，その存在や功績はすくなくとも芭蕉の心の中には存在しており，人の心を動かすほどかけがえのないものとして残っていると捉えていると思ったからです。そして中島さんは，「宇宙の掌の中人は永久欠番」とあるように，100億の人々が忘れて見捨てたとしても，この世界より大きい宇宙という空間で永久に欠番する一人としてどこかに残り続け，存在した意味や存在していたあかしは消えることのないものだと捉えていると思ったからです。この二人に共通している「人の存在のはかなさ」とは，人の生きた形が「夢の跡」となっても「100億人が忘れても」地球を超えた広い宇宙の中で永久に欠けることのないものとして残り続けると捉えていると思いました。  ・「平泉」には，「功名一時の草むらとなる」という表現がある。かつて平泉で活躍した源義経も今はすでにいなくなり，自然だけが残っている。自然に比べて人間がいかにちっぽけなのかということがわかる。 　また「永久欠番」にも「街は回ってゆく　人一人消えた日も　何も変わる様子もなく　忙しく忙しく先へと」という表現がある。その人一人がいなくなったところで，世の中は何も変わらないくらいちっぽけな存在だということがわかる。 　この２つの作品を通して考えられる「人の存在の儚さ」とは，「どれだけ頑張ってもいつかはなくなってしまうちっぽけなものだ」ということだ。 |
| 解答類型２ | （想定する誤答例）  芭蕉は，人の存在はいつかなくなるものだが，そこに人がいた形跡は残ると考えていると思った。 中島みゆきは，人はいつか死ぬが，どんなに時が変わってもその人の代わりには誰もなれないと考えていると思う。  〔実際の生徒の誤答例〕 ・「平泉」では，昔三代まで栄えていた人がいたがその人たちがこの世から去った後その人たちが住んでいた場所はもう建物はなく建物があったという跡しか残ってない。そして昔，武士が名誉を得ようと戦った場所も今となってはもうその景色は残っていない。この作品から「人の存在の儚さ」とはいくらこの場所には濃い出来事があったとしても時が立てばもうその場所にはその面影は簡単になくなってしまうものだいうことがわかった。 　「永久欠番」では，世の中は人が一人この世を去ろうが何人去ろうがいつもどおりに世の中は回っている。私たちはその去った人たちと同じようにだいたい100年後にはもうこの世にいない。このように永遠とこれを繰り返していく。もし自分が愛してた人がこの世から消えたとする。最初は気になるだろうがいつか時が立てばだんだんその思いは消え忘れていく。そしてその代わりになるものもある。ここからこの物語の「人の存在の儚さ」とは最初はその人のことを考えていてもいつか時が経てばそれは簡単に忘れてしまうものだと思った。 |
| 解答類型  ３ | （想定する誤答例）  「平泉」では，芭蕉は「夏草や　つはものどもが　夢の跡」という歌を詠んでいる。 また「永久欠番」には，「どんな記念碑（メモリアル）も　雨風にけずられ崩れ　人は忘れられて　代わりなどいくらでもあるだろう」や「１００億の人々が忘れても　見捨てても　宇宙（そら）の掌の中　人は永久欠番」という表現がある。  〔実際の生徒の誤答例〕 ・「平泉」では「夏草やつはものどもが夢の跡」と書いてあり，あしあとのようなものだけが残っているような感じでとらえている。  「永久欠番」では「どんな記念碑(メモリアル)も　雨風にけずられて崩れ　人は忘れられて　代わりなどいくらでもあるだろう　だれか思い出すだろうか　ここに生きてた私を」と書いてある。 |

問題②　解答類型

|  |  |
| --- | --- |
| １ | 条件①，②を満たして解答しているもの。 |
| ２ | 条件①を満たし，条件②を満たさないで解答しているもの。 |
| ３ | 条件②を満たし，条件①を満たさないで解答しているもの。 |
| 99 | 上記以外の解答 |
| ０ | 無解答 |

|  |  |
| --- | --- |
| 解答類型１ | （正答の条件） ①　自分の考えを書いている。 ②　①について，根拠となる経験や見聞をふまえて書いている。  （想定する正答例） 　私はこの２つの作品を読んだとき，相田みつをさんの詩を思い出した。それは，自分のご先祖様たちがつないできたバトンを，今度は自分が受け取る番だという詩だ。長い歴史の中では，自分の人生なんてわずかな時間だけれど，大事な命をつなぐという役割を果たす存在でもある。人間は永遠には生きられないし，自然と比べたら人間なんてちっぽけではあるが，「懸命に生きた人がいたという事実やさまざまな思い」が人間の歴史をつなぐための大事な役割を果たしているのだと思った。  〔実際の生徒解答例〕 ・私は，当時のことや，その人に会ったことがなかったとしても，生きていた存在自体は消えることはないのではないかと思います。実際，私たちの住んでいる県には原爆が落とされて沢山の方が亡くなったということを忘れないようにするために，さまざまなプロジェクトに取り組んだりしました。生徒会では，折り鶴プロジェクトをして，原爆についての恐ろしさというものを学びました。また，歴史の授業では，私が生まれる前のことなどを学んだりして，その人が何をしてきたのか知る事ができました。このことから，誰か1人が世界からいなくなったとしても，関わりのあった人の心の中にはその人がいて，また，大切な記念碑も必ず忘れ去られてしまう訳ではないと思います。  ・私も，二人の作者さんと同じで，人は亡くなると姿や形は残らないが，どこかで必ず残っていると思う。なぜなら，五年前に亡くなったおじいちゃんとよく行っていた場所に行くと，普段の生活の中では思い出したりしないようなおじいちゃんとの何気なく交わした会話や出来事が鮮明に思い出されるからだ。おじいちゃんとよく食べに行ったレストランに行くと，おじいちゃんがよく食べていたものや，おじいちゃんの優しさがよみがえってくる。私はこのような体験から，人の存在の儚さについて，人の存在は必ず誰かの心の中で永久に残り続けると考える。 |
| 解答類型１ | ・私は芭蕉と中島さんの考えから，時がたつにつれて忘れられてしまうのはしかたのないことだと思うけど，宇宙の中で私の生きたあかしが残り続けると思うと，今この一瞬を精一杯生き抜こうと思えました。私はバレーをしていて，厳しい練習にも必死にたえて頑張っていても，努力がむくわれないことが沢山ありました，私の頑張りや辛さはどこに消えていったんだろう…と落ち込んでいた時もあったけど，この二人の考え方から目には見えないけど宇宙のどこかに残っているのかなと考えると，辛いことも頑張れると思ったからです。人の存在や努力は消えずに，どこかに残っている，無駄にはならないから大丈夫なんだと思えました。 |
| 解答類型２ | 〔想定する誤答例〕 　人間は永遠には生きられないし，自然と比べたら人間なんてちっぽけではあるが，「懸命に生きた人がいたという事実やさまざまな思い」が人間の歴史をつなぐための大事な役割を果たしているのだと思った。  〔実際の生徒の誤答例〕 ・僕は２人の考えと同じです。たとえ人一人死んだとしても社会にはそこまで影響しないかも知れないけれど，死んだ本人からしたら結構可哀想に思えるし，すごく切ないと思います。 　これを見て私は平泉や永久欠番のように人はいつの日か消えることで命の儚さが一番最初にわかりました。そして，永久欠番は一日一人一人，人がいなくなるそして忘れられてしまうことで人は尊いものだと思いました。  ・僕は，芭蕉と中島みゆきの考える「はかなさ」である，脆いものや忘れられるものとは反対に，「はかなさ」とは，忘れられず人の心に強く結びつくものだと思います。 　大切な人が亡くなったとき，その人との別れを悲しんだり，その人と過ごした日々を思い出したりするのは，人の命ははかなく，日々を過ごすその毎日が奇跡だからです。僕は，ふとした瞬間にいろんなことを思い出します。人は誰しも，一度は思い出話をしたことがあります。それは，その瞬間を忘れたくないからです。人生ははかないからこそ，人は今を大切に生きようとし，その生きた証を忘れず，心に結びつけるのだと思います。 |
| 解答類型３ | 〔想定する誤答例〕 　私はこの２つの作品を読んだとき，相田みつをさんの詩を思い出した。それは，自分のご先祖様たちがつないできたバトンを，今度は自分が受け取る番だという詩だ。  〔実際の生徒の誤答例〕 ・私も広島城で昔の街並みの展示を見たことがあります。今はそんな街並みも残っていません。そこであった出来事は今では文章でしか残っていなく寂しい気持ちになりました。  ・私は２つの作品を通して，最近自分が感じたことと共通していると思った。それは，私がどんなに家の近くの海岸に流れ着くプラスチックゴミをなんとかしたいと思って拾っても，一人の力ではどうにもならないと痛感したことだ。 |
| 解答類型99 | 〔実際の生徒の誤答例〕 ・僕は，資料Ⅱの「永久欠番」の表現していた事に，たしかにと思いました。なぜなら，今年のヤクルトの村上選手が577本のホームランを打ち，王選手の記録を抜いたからです。そのときに出てきた王選手の56本のホームランを打ったということは，今では若い世代ではあまり覚えている人は少なく，一般の人は「へぇー」と思ったのではないでしょうか。王選手の56本のホームランを打ったことはすごいことなのに，時間が経てばみんな忘れてしまって，世界もそのような事が起こっても何も変わらず先に進んでしまうので，資料Ⅱの「永久欠番」の表現していた事に，たしかにと思いました。 |